

# 「漢語拼音方案」における 舌面音の表記について

生 塩 加 詠

## 1 はじめに

「漢語拼音方案」は1958年に全國人民代表大會で批准され公布された、中國語（普通話）のローマ字表記法である。この「漢語拼音方案」は現在、中國國內外での教育に廣く用いられている。また、1977年に第3回国連地名標準化會議で中國の地名のローマ字表記にピンインを使用することが認められるなど、世界的にも通用している。<sup>1)</sup>

中國文字改革委員會<sup>2)</sup>主任であった吳玉章は、吳玉章 1978 : 155で、「漢語拼音方案」は「可以说它是三百多年來拼音字母运动的结晶，也是六十年來中國人民创造拼音方案的经验总结。（三百年來の表音字母運動の結晶であり、六十年來、中國人民が表音文字の表記法を作り出してきた經驗の總括でもあるということが出来る）」と述べている。この「漢語拼音方案」は文字改革や言語政策の面からの「總括」として言及されることは多いが、「漢語拼音方案」の表記の體系そのものについて「中國人民が作り出した表音文字の經驗」をどのように總括したのか言及されることは少ない。このため、この論文では「漢語拼音方案」の表記の體系に焦點を當て、それまでの中國の表音文字化が「漢語拼音方案」にどのように影響したかについて考察する。

## 2 先行研究

まず、「六十年來、中國人民が表音文字を作り出してきた經驗」として挙げられることが多いのは國語ローマ字とラテン化新文字である。「漢語拼音方案」は國語ローマ字とラテン化新文字の影響を強く受けているとされる。例えば、大原 1994 : 230では次のように述べられている。

- (1) 「漢語拼音字母」すなわち pinyin と略稱されている字母を用いる現行の中國語ローマ字表記法（漢語拼音方案）は、過去60數年にわたる中國の文字改革運動の總決算であり、とりわけ國語羅馬字（國語ローマ字）と拉丁化新文字（ラテン化新文字）という2つの遺産を繼承し發展させたものである。

國語ローマ字とは、主に趙元任が考案し、1928年に中華民國政府によって制定されたローマ字表記法である。聲調の違いを、補助記號を使わずに綴りの違いのみで表すのが特徴である。例えば、ピンイン mā má mǎ mà は國語ローマ字で mha ma maa mah と表記する。そのほか、分かち書きを重視すること、ローマ字以外の記號を用いないこと、基礎方言が北京語であるなどの特徴がある。國語ローマ字は表記が複雑すぎることで、政府や民衆からの支持が得られなかったことなどの理由で、民衆に普及することはなかった。

次に、ラテン化新文字とは、ソビエトに住む中國人労働者の識字教育を目的に1930年代にソビエト連邦で制定されたローマ字表記法である。瞿秋白らが考案した『中國拉丁化的字母』を元に、「中國漢字拉丁化的原則和規則」が可決された。中國国内では共産黨支配地域でラテン化新文字による識字教育が行われた。ラテン化新文字の特徴として、聲調を表記しないこと、方言を書き表すことが挙げられる。<sup>3)</sup>

上記二つのローマ字表記法の影響を受けて制定されたのが「漢語拼音方案」である。ただ、國語ローマ字とラテン化新文字で表記が異なる部分は制定の際に問題となった。周有光 2002: 110は「漢語拼音方案」の制定の際に問題となった箇所について、問題の大きさによって音素を3つのグループに分けた上で、次のように述べている。

- (2) 3. 字母配合问题较大的音素, 例如舌尖元音和j, q, x等。(中略), 第三组是新方案拟订工作的真正研究对象。

(3. 字母の組み合わせの問題が比較的大きい音素、例えば舌尖母音やj, q, xなど。(中略) 第三グループが新しい漢語拼音方案作成の際の眞の研究對象である。)

比較的大きい問題として挙げられているのが、j, q, x（舌面音）と舌尖母音である。j, q, xと舌尖母音はどちらも、國語ローマ字、ラテン化新文字、「漢語拼音方案」でそれぞれ表記が異なる。特に舌面音の表記はそれぞれの表記法が大幅に異なるため、ここではピンインj, q, xの表記について考察し、過去のローマ字表記がj, q, xという表記にどのような影響を與えたのか検討する。

まず、周有光 2002 : 116は「漢語拼音方案」のj, q, xについて以下のように述べている。

- (3) 这是这次拟订汉语拼音方案的一个争论焦点。过去的方案一般都用条件变读来表示这一组辅音。（中略）可是注音字母是基本上不用条件变读的。人们要求最好用三个独立字母来表示这一组辅音，而且要求最好不造新字母，也不用双字母。结果就从原草案（1956）的ㄐ, ㄑ, ㄒ（其中ㄐ是新字母）改为最后定案的j, q, x。

可以说，j是半个國語罗马字（原读 [tʃ]，变读 [tɕ]），x是半个拉丁化新文字（原读 [x]，变读 [ɕ]）。q是多余字母的借用和引申。q的基本读音原来是 [k]，现在使它按照汉语拼音字母k可以变读 [tɕ] 的原则，担任专读 [tɕ] 的职务。

（これは今回、漢語拼音方案を制定するにあたっての一つの争点であった。過去の表記法はどれも条件によって読み替える方法でこれらの子音を表記してきた。（中略）しかし、注音字母は基本的に条件によって読み替える方法を取らない。人々はできるだけ3つの独立した字母でこれらの子音を表記することを望み、また新しい字母を作らず、2種類の字母を組み合わせないことを望んだ。その結果、原草案（1956）のㄐ, ㄑ, ㄒ（この中のㄐは新しい字母である）は最終決定のj, q, xに改められた。

jは半分國語ローマ字であり、（元の読み方は [tʃ]、読みかえて [tɕ]）、xは半分ラテン化新文字であるということが出来る。（元の読み方は [x]、読みかえて [ɕ]）。qは餘った字母の借用と派生である。qの基本的な读音は本来 [k] である。現在、中國語の表音文字でkは [tɕ] と読み替えることが出来るという原則に基づいて、qに [tɕ] の读音を専任させる。）

このように、過去の表記法では舌面音を読み替えによって表すこと、「漢語拼音方案」では舌面音が獨立していること、注音字母と「漢語拼音方案」の表記法が共通していることが指摘されている。また、jとxという表記はそれぞれ國語ローマ字、ラテン化新文字由來の表記法であると述べられている。

注音字母とは1918年に中華民國政府によって公布された中國語の表音文字で、ローマ字ではなく、漢字筆畫式と呼ばれる、漢字から形をとった字母である。1930年に名稱が注音符號に改められた。当初は「讀音統一會」で定められた國音（老國音）を表すものであったが、のちに新國音と呼ばれる北京語を書き表すものに変わった。注音字母の特徴は、三拼法をとることである。三拼法とは、音節を聲母・介音・韻母の三つの部分に分けて表記する方法である。例えば、快（ピンインkuài）は注音字母でㄎㄨㄞˋと表記し、k-u-aiという構成になる。

「漢語拼音方案」の舌面音の字母の獨立については、王理嘉 2002 : 166-167 で以下のように述べられている。

- (4) 聲母表内字母和语音的配置关系说，方案與注音符號却是一致的，它們都给舌面音配置了字母。而國羅、北拉却跟絕大多數的拉丁化拼音方案一樣，不给舌面音單獨配置字母，让舌面音或與舌尖后音或舌尖前音共用一套字母（國羅、威妥瑪、美國耶魯大學等），或與舌根音合用一套字母（北拉、郵政式等）。而汉语拼音方案几经斟酌之后，舍弃了这一传统，采用注音字母分离式的办法，为之單獨配置了三个字母。現在看來這是一种十分明智的选择。

（聲母表の中の字母と音聲の配置の關係から言えば、漢語拼音方案と注音符號は一致している。両者はどちらも舌面音に字母を設けているのである。國語ローマ字と北方語ラテン化新文字は壓倒的多數のラテン字母式の表音方法と同じように、舌面音に單獨に字母を配置せず、舌面音をそり舌音もしくは舌尖音と字母を共用にする（國語ローマ字、ウェード式、イエール大學式など）か、舌根音と字母を共用にしていた（北方語ラテン化新文字、郵政式など）。漢語拼音方案は何度も熟慮を重ね、この傳統を捨て、注音字母の分離方式を採用し、このために單獨に3つの字母を設けた。現在から見てみれば、

これは大變賢明な選擇である。）

こちらでは、過去のローマ字表記法の舌面音の表記法が具体的に示されている。そして、「漢語拼音方案」の舌面音表記は音韻體系の整理の觀點から見れば注音字母と同じであり、過去のローマ字表記法とは異なるということが指摘されている。

しかし、これ以上詳しい舌面音表記の検討はなく、注音字母がどのように舌面音を獨立させていたのか、「漢語拼音方案」の、jとxという表記がなぜ國語ローマ字とラテン化新文字由來なのかなど、不明な點も多い。このため、以上の2つの研究で言及のあった、舌面音の表記、舌面音に關する表記の整理という觀點から各ローマ字表記法を検討する。

ローマ字表記法によって舌面音の表記が異なる理由として、北京語の舌面音が比較的新しく、2つの由來を持つこと、ローマ字の基礎方言が異なることが挙げられる。北京語の舌面音は、清代に齒頭音聲母 [ts-] [ts<sup>h</sup>-] [s-] に齊齒呼か撮口呼が續く音節（尖音）と牙喉音聲母 [k-] [k<sup>h</sup>-] [x-] に齊齒呼か撮口呼が續く音節（圓音）が合流したものである。このため、舌面音は齊齒呼（ピンイン i）、撮口呼（ピンイン ü）のみを持つ。このため、表記法によって舌面音の扱いが異なることになる。また、尖圓を分ける方言を基礎方言としているローマ字もあり、このようなローマ字表記はピンイン j, q, x とそのまま對應させることができない。

以上のような理由からローマ字表記法によって異なる舌面音の表記があり、「漢語拼音方案」制定の際にも問題になったと考えられる。

### 3 過去の舌面音表記の検討

「漢語拼音方案」に影響を與えた、國語ローマ字、ラテン化新文字、注音字母における舌面音の表記法について「漢語拼音方案」の舌面音表記と比較する。

#### 3.1 國語ローマ字の舌面音表記

まず、國語ローマ字の舌面音表記について検討する。<sup>4)</sup> 國語ローマ字は北京

語を基礎方言とし、舌面音はj, ch, shと表記する。「漢語拼音方案」と共通するのは、jという表記である。周有光は「漢語拼音方案」のjという表記について、(3)のように、國語ローマ字のjという表記が「漢語拼音方案」のjの由来になっていると述べている。このため、國語ローマ字のjを中心に検討していく。

國語ローマ字ではそり舌音（ピンインzh, ch, sh）と舌面音（ピンインj, q, x）にそれぞれ別の字母を立てずに、同じj, ch, shで表記する。後ろにくる韻母がiもしくはiuで始まるもの以外はそり舌音、後ろにくる韻母がiもしくはiuで始まるものは舌面音として讀む。<sup>5)</sup> 例えば、國語ローマ字ではそり舌音と舌面音は以下のように表記される。（國語ローマ字（例字、ピンイン）の順に示す。）

例1 jie（街、jie）chie（切、qie）shie（歇、xie）

例2 je（遮、zhe）che（車、che）she（奢、she）

このように表記する理由として、趙元任 1929: 40は、「聲母ㄐㄑㄒ僅有齊撮，ㄐㄑㄒ僅有開合，故可同用j, ch, sh三母而不混，以避字形過于繁細。（聲母ㄐㄑㄒ僅有齊齒呼と撮口呼のみを持ち、ㄐㄑㄒは開口呼と合口呼のみを持つため、j, ch, shと共用しても混同せず、字形が複雑になりすぎるのを避けることができる。）」<sup>6)</sup>と説明している。これについては趙元任 1922: 104-105に詳しく記載がある。<sup>7)</sup>

- (5) 字母底系統，和拼法底規則不必求十二分整齊呆板，只要求實用的時候統計起來的便利，例如j, tc, c凡是有i, v的讀ㄐ，ㄑ，ㄒ，沒有的就是ㄐ，ㄑ，ㄒ，這是很容易記的。而且不用記牠，讀起音來自然而然只有這麼改法才讀得順。

（字母の系統と綴り方の規則は、この上なく整っていて堅苦しいものを追求する必要はない。実際に使用する時に全體を通して便利なものだけが必要である。例えば、j, tc, cはi, vを持つものはすべてㄐ，ㄑ，ㄒと讀み、そうでないものはㄐ，ㄑ，ㄒである。これは記憶しやすい。その上これを覚える必要はなく、讀んでみればおのずとこのように改める方法だけがスムーズに讀めるのである。）<sup>8)</sup>

- (6) 無用處不細分辨。——相近的聲音，假如在實際上不會混亂，儘可以用一樣寫法。（中略）所以用j, tc, c作兩種讀法於實際上的分辨一點沒有妨礙。

（必要のないところは細かく區別しない。似た音は、實際には混亂しないのなら同じ書き方を用いて良い。（中略）このため、j, tc, cが2種類の読み方を擔うことは實際の區別に全く障害にならないのである。）

以上のことから、趙元任はそり舌音と舌面音に別の字母を設けると體系が複雑になると考え、その複雑さを避けるためそり舌音と舌面音にそれぞれ別の字母を設けなかったことが読み取れる。

また、ㄐとㄑにjという表記を用いた理由について趙元任 1922: 105-106では、「照學理上的分析，ㄐ，ㄑ，ㄓ，ㄔ，ㄗ，ㄘ都是兩個音素，（中略）我們本國人不覺得牠底複合的性質，（中略）所以爲實用的便利，把這當中用得最多的用單字母代表，就是用j當ㄐ，ㄑ（不用dj或dq）（學理上的分析にならうと、ㄐ，ㄑ，ㄓ，ㄔ，ㄗ，ㄘは全て二つの音素だが、（中略）私たち中國人はその複合の性質を感じない。（中略）そのため使用するときには便利なように、この中で最も多く使う單獨の字母を代表とする。つまり、jがㄐ，ㄑを表す（djやdqを用いない）」と述べられている。ここでも複雑な表記を避ける姿勢が読み取れる。これらの記述から、そり舌音と舌面音の表記を共用にしたのはその便利さからであるということが分かる。

周有光 2002: 110は(3)のように「jは半分國語ローマ字であると言える。」と述べているが、この「半分國語ローマ字」というのは、國語ローマ字ではjがそり舌音と舌面音を表すのに對し、「漢語拼音方案」では舌面音のみを表すため、「半分」なのである。

以上、國語ローマ字は、舌面音とそり舌音の表記を一つにしても、韻母によって自然にそり舌音と舌面音になるため、區別して表記する必要はないという理由から、そり舌音と兼用する表記を採用していることがわかった。「漢語拼音方案」はそり舌音と舌面音を區別して表記するが、舌面音の表記に國語ローマ字由來のjを用いている。

### 3.2 北方語ラテン化新文字の舌面音表記

次に、北方語ラテン化新文字の舌面音表記について検討する。<sup>9)</sup>「漢語拼音方案」で舌面音はj, q, xと表記するが、ラテン化新文字では尖音と團音の區別を残しているため、g, k, x (もしくはh) とz, c, sの2種類の表記がある。xと表記するのは北方語ラテン化新文字、hと表記するのは瞿秋白らによるラテン化新文字である。瞿秋白らが考案したラテン化新文字と、これを修正した「中國漢字拉丁化的原則和規則」による北方語ラテン化新文字では表記法が若干異なるが、尖音と團音の區別を残している點は同じである。「漢語拼音方案」の舌面音と共通しているのは北方語ラテン化新文字のxである。このため、北方語ラテン化新文字のxを中心に検討していく。

「漢語拼音方案」ではj, q, xと表記するところを、北方語ラテン化新文字では以下のように表記する。(北方語ラテン化新文字(例字、ピンイン)の順に示す。)

例3 Zing (井, jǐng) Cing (青, qīng) Sing (星, xīng)

例4 Ging (京, jīng) King (傾, qīng) Xing (形, xíng)

このように、北方語ラテン化新文字では尖音と團音を分けて表記する。周有光 2002: 110では、(3) のようにラテン化新文字のxという表記が「漢語拼音方案」のxの由來になっていると述べている。

北方語ラテン化新文字の團音については、gi-, ki-, xi- (gy-, ky-, xy-)<sup>10)</sup>と表記するものの、[tɕ] [tɕʰ] [ɛ]と読んでいたと考えられる。吳玉章 1978: 72は、各種のローマ字表記、注音字母、三十六字母の對照表を掲げ、「把‘ㄐ’‘ㄑ’‘ㄒ’‘ㄓ’‘ㄔ’，即‘gi’‘ki’‘ni’‘xi’列出來，以作‘ㄍ’‘ㄎ’‘ㄎ’，即‘g’‘k’‘ng’‘h’的軟音。(‘ㄐ’‘ㄑ’‘ㄒ’‘ㄓ’‘ㄔ’すなわち‘gi’‘ki’‘ni’‘xi’を‘ㄍ’‘ㄎ’‘ㄎ’‘ㄎ’すなわち‘g’‘k’‘ng’‘h’の軟らかい音として配置した。)]<sup>11)</sup>と述べている。ここから、gi-, ki-, xi-を注音字母ㄐㄑㄒと同じように、つまり[tɕ] [tɕʰ] [ɛ]と読んでいたと考えられる。

「漢語拼音方案」では尖音と團音を區別しない一方、北方語ラテン化新文字は尖音と團音を區別して表記するため、舌面音のうち、「漢語拼音方案」でxと表記されるものと北方語ラテン化新文字でxと表記されるものの範圍は異な



る。北方語ラテン化新文字は牙喉音をg, k, xで表し、その後にはiもしくはyが  
続く場合に團音を表す。北方語ラテン化新文字xはピンインhとピンインxの  
一部を表していたのである。

その上で、北方語ラテン化新文字のxi-（またはxy-）は團音のみを表すが、現  
在の「漢語拼音方案」は尖音と團音を區別せずに全ての[e]をxで表記するた  
め、「漢語拼音方案」のxという表記は北方語ラテン化新文字よりも範囲を擴  
大させたということになる。また、「漢語拼音方案」の牙喉音はg, k, hと表記  
するため、xに牙喉音としての役割は無くなった。ここから、「漢語拼音方案」  
のxという表記は、北方語ラテン化新文字が元になっているが、「半分ラテン  
化新文字」と言うよりは、舌面音に字母を立てた「漢語拼音方案」独自の表記  
であるともいうことができるだろう。

北方語ラテン化新文字が尖團を區別するのは、基礎方言が北京語でないため  
である。ラテン化新文字は方言を重視する方針であったことから、各地に各種  
のラテン化新文字が誕生した。このため、ラテン化新文字の基礎方言は様々で  
ある。この中で、最も廣まったのが北方語ラテン化新文字であった。

この北方語ラテン化新文字の基礎方言は明確に示されていない。一九三一年  
九月海參威第一次中國新文字代表大會決議 1949：54-55には北方方言を基礎と  
する旨の記述があるが、北方語ラテン化新文字は尖團を區別するため、この  
「北方方言」は北京語ではないと考えられる。

黎錦熙 1934：299-300や倉石 1952：136-137では、ラテン化新文字は山東方  
言を基礎としているということが指摘されている。また、倪海曙 1987：76や、  
北方語ラテン化新文字の表記法が示された蕭三編 1978：151の中にも当時ソ連  
に山東出身者が多かったという記述がある。

周有光 2002：103-104では、北方語ラテン化新文字が山東方言ではないとし  
た上で、尖團を分けること、韻母[o]に開口呼と撮口呼があること、「崩、蓬、  
夢、風」等の韻母がongであることを、聲調を表記しないことを挙げ、北方語ラ  
テン化新文字が老國音に近いことを指摘している。<sup>12)</sup>

瞿秋白らが考案したラテン化新文字の基礎方言については、瞿秋白 1989：  
309に以下の記述があり、普通話の基礎方言に對する考え方が窺える。

- (7) 普通話の口音，應當大致拿長江流域的中部口音作基礎，但是，也不能夠拘泥着這個標準，因為這就要使普通話喪失它的中立語的性質。所以具體說來，應當把以前的所謂“國語”之中的一些不普通的北方口音除去，取消一些過於精細的分別。

（普通話の音はおおよそ長江流域中部の音を基礎とすべきであるが、この標準にこだわることはできない。なぜなら、普通話の中立語の性質が失われるからである。このため、具体的に言うと、以前のいわゆる「國語」の中いくつかの普通でない北方方言を取り除いて、細かすぎる區別を取りやめるべきである。）

この中では、長江流域中部の音を基礎とすべきとしながらも、普通話は中立であるべきとしている。

中村 2006 : 2 では、尖音と團音を區別することの他に、入聲字の表記が Edkins による官話音とほぼ等しいこと、韻尾「-n」と「-ng」の區別が徹底されていないことを挙げ、次のように述べている。

- (8) 當初瞿秋白が表記しようとしたものが北京語でないばかりか北方方言でさえなかった可能性の高いことがわかる。瞿秋白が江蘇省常州の出身であること、また彼が聲調を（入聲を含む）五聲と表現していることなどから、彼の表記は事實上（廣義の）南京官話を基礎として考案されたものと考えられるのである。

瞿秋白は長江流域中部の音にはこだわらないと述べているが、瞿秋白によるラテン化新文字の基礎方言は長江流域中部のものに近いようである。このことについて、大原 1994 : 99 は、「おそらく江蘇省常州の出身である彼の本音であろう。」と述べている。

以上、瞿秋白によるラテン化新文字は少なくとも北京語ではなく、長江流域中部の方言もしくは南京官話を基礎としていると考えられる。また、北方語ラテン化新文字は瞿秋白によるラテン化新文字を元にしてしているため、尖團の區別などの特徴を受け継いだことも考えられる。

これらのことから、北方語ラテン化新文字の基礎方言は明らかでないが、少なくとも北京語ではないと考えられる。北方語ラテン化新文字は國語ローマ字や「漢語拼音方案」とは違い、北京音を基礎としていないという点で、表記の體系が異なるため、北京音を基礎とした表記法と一対一で對應していないことは、注意が必要である。

以上のことから、ラテン化新文字は尖團を區別するため、gi-, ki-, xi- と zi-, ci-, si- の表記があり、「漢語拼音方案」の x という表記は北方語ラテン化新文字の團音の表記を應用した使い方であると考えられる。

### 3.3 注音字母（注音符號）の舌面音表記

「漢語拼音方案」の制定に影響を與えたものとして、國語ローマ字とラテン化新文字が擧げられることが多いが、國音を表す表音文字として注音字母（注音符號）にも觸れておきたい。注音字母は、政府から公布された最初の中國語の表音文字であり、(4) のように「漢語拼音方案」との共通點も指摘されているためである。

注音字母では舌面音をㄹ、ㄑ、ㄒと表記する。この表記は新國音（北京語）を表記するようになってからのもので、注音字母制定當時は老國音を表記していたため、尖團を分ける。<sup>13)</sup>

黎錦熙 1934 : 77-78によると、老國音を表す注音字母のうち尖團に関わる部分は以下の通りである。

- (9) ㄍ（見一）、ㄎ（溪一）、ㄑ（曉一）  
ㄌ（見二）、ㄎ（溪二）、ㄒ（曉二）  
ㄑ（精）、ㄑ（清）、ㄌ（心）<sup>14)</sup>

ここでは、それぞれの注音字母に對應する三十六字母が付されており、見母、溪母、曉母にはそれぞれ一と二の注音字母が設定されている。<sup>15)</sup> それぞれの使い方は以下の通りであり、尖團を分けている。（カッコ内に例字とピンインを示す。）

例5 ㄐㄌ (基, ji)、ㄑㄌ (期, qi)、ㄒㄌ (係, xi)

例6 ㄆㄌ (積, ji)、ㄑㄌ (七, qi)、ㄌㄌ (西, xi)

このように、ㄐ、ㄑ、ㄒはそれぞれ見母、溪母、曉母にㄌ (ピンイン l) が続く場合に用いられる字母であることから、團音のみを表すことが分かる。また、ㄆ、ㄑ、ㄌには後ろに韻母が続かないㄆ、ㄑ、ㄌ (字、次、四など) と韻母ㄌが続くㄆㄌ、ㄑㄌ、ㄌㄌ (積、七、西など) があり、後者が尖音を表す。

一方、新國音での注音字母は、以下のような表記になっている。

例7 ㄐㄌ (基, ji)、ㄑㄌ (期, qi)、ㄒㄌ (係, xi)

例8 ㄐㄌ (積, ji)、ㄑㄌ (七, qi)、ㄒㄌ (西, xi)

このように、老國音では異なる聲母だったものが、同じ聲母で表記されるようになった。新國音は北京語を標準とするため、尖團を區別しなくなったのである。このため、老國音では團音を表していたㄐ、ㄑ、ㄒが舌面音全てを表すようになってきている。本来尖音であった字もㄐ、ㄑ、ㄒで表記するようになったため、ㄆㄌ、ㄑㄌ、ㄌㄌという表記は無くなった。老國音の表記では團音ㄐㄌ、ㄑㄌ、ㄒㄌと他の牙喉音聲母ㄍ、ㄑ、ㄒは別に設けられていたため、新國音で尖音と團音を區別しなくなると、ㄐ、ㄑ、ㄒは舌面音のみを表すようになった。

國語ローマ字が舌面音に専用の字母を設けずにそり舌音の聲母と兼用していることや、ラテン化新文字が尖音と團音を分けて表記し、舌面音の聲母がないことと比較すると、注音字母が舌面音のみを表す聲母ㄐ、ㄑ、ㄒを有している点で、國語ローマ字や北方語ラテン化新文字とは異なるということが出来る。

#### 4 「漢語拼音方案」の制定過程における舌面音表記

ここまで、國語ローマ字、ラテン化新文字、注音字母 (注音符號) はそれぞれ舌面音の扱いが異なっていることを確認した。ここからは、「漢語拼音方案」制定の過程における舌面音表記を検討する。「漢語拼音方案」が最終決定するまでには、いくつかの草案が公表されている。これらを比較して最終的に舌面音を j, q, x と表記すると決定するまでにどのような経過を辿ったのかについて

検討する。

#### 4.1 1955年漢語拼音文字方案（ラテン字母式）草案初稿の舌面音表記

周有光 2002：140-147によると、1955年の漢語拼音文字方案（ラテン字母式）草案初稿では、この草案による表記と注音字母が示されており、舌面音の表記は以下の通りである。

g ㄍ、k ㄎ、h ㄏ、g (i, y) ㄐ、k (i, y) ㄑ、h (i, y) ㄒ<sup>16)</sup>

g, k, h は牙喉音と舌面音を兼ねており、韻母によって読み分ける方式である。g, k, h には注記があり、後ろに i や y が続く表記の例として以下の単語が挙げられている。

giki [机器] gymin [居民] kiguai [奇怪] kybie [區別]  
hiwang [希望] hyesheng [學生]

これらの例で挙げられているのは全て團音字であるので、g (i, y)、k (i, y)、h (i, y) は團音のみを表すことが分かる。また、後半には「说明(甲)对于本方案的补充解释和举例」という部分があり、尖音についての説明がある。

(10) zi, ci, si, 读ㄗ、ㄘ、ㄙ；zii, cii, sii 读ㄗㄨ、ㄘㄨ、ㄙㄨ，例如 Si'an [泗安]，Sii'an [西安]。尖音音节 z, c, s 后面复韵母中的 i 仍旧念“ㄨ”，例如 sin [ㄙㄨㄣ] siang [ㄙㄨㄤ] sisiang [思想] siisiang [西厢]。

(zi, ci, si, はㄗ、ㄘ、ㄙと読み、zii, cii, sii はㄗㄨ、ㄘㄨ、ㄙㄨと読む。例えば、Si'an [泗安]，Sii'an [西安]。尖音の音節 z, c, s の後ろの複合韻母中の i は変わらずㄨと読む。例えば、sin [ㄙㄨㄣ] siang [ㄙㄨㄤ] sisiang [思想] siisiang [西厢]。)

こちらでは尖音(ㄗㄨ、ㄘㄨ、ㄙㄨ)に専用の表記zii, cii, siiを設けており、ㄗ、ㄘ、ㄙとㄗㄨ、ㄘㄨ、ㄙㄨが対立することが示されている。以上のことが

ら、1955年の漢語拼音文字方案（ラテン字母式）草案初稿の時点では、尖音と團音を區別して表記する方針だったことが分かる。

また、この時点ではq, v, xは方言、外來語などの特殊な場合のみに用いることになっている。

#### 4.2 1956年2月漢語拼音方案草案の舌面音表記

周有光 2002 : 147-162によると、1956年2月の漢語拼音方案草案では、舌面音は以下の表記になっている。

ㄑ (ㄑ基) q (ㄑ欺) x (ㄒ希)

この1956年の草案で初めて舌面音に専用の字母が設けられた。ㄑはキリル文字である。この字母を用いた理由として、「注音字母里的ㄑ [基], 过去习惯用g或j来表示, 但是这两个字母已经在方案中规定作别的读音, 所以改用俄文字母ㄑ (注音字母のㄑ [基] は今までgまたはjで表すことが習慣となっていたが、この二つの字母はすでに(漢語拼音) 方案のなかで他の讀音を定めているため、キリル文字ㄑに變える。)」と述べられており、一つの字母が一つの音素を表すという原則を優先したことがわかる。また、ㄑが注音字母ㄑの形と似ていることも採用された理由として挙げられている。qという表記も制定の過程ではここで初めて登場するが、[tɕ<sup>h</sup>] にqを用いることについてこの草案の後半に付された説明の中では觸れられていない。

また、草案に付された説明の中には「拟订过程中有哪些重要的不同意见? (立案の過程でどのような異なる重要な意見があったか?)」という項目があり、この中で「关于语音标准问题 (音聲の標準の問題について)」が一つ目に挙げられている。ここでの問題は尖音と團音を區別するかどうかということで、「后来大家一致同意以北京语音为标准 (その後、北京音を標準とすることで全員一致した)」という結論が出たことが述べられている。ここから、ㄑ, q, xは尖音と團音を區別せず、舌面音全體を表記できると考えられる。しかし、この草案の中で例として挙げられているのは團音字 *chie* (解)、*xye* (學) のみで、尖音字の例はない。

#### 4.3 「关于修正汉语拼音方案的初步意见」の舌面音表記

續いて1956年8月には「关于修正汉语拼音方案的初步意见」が発表された。この中では、上記の草案に対して寄せられた意見をもとに、修正第一式と修正第二式という2種類の案が提示された。周有光 2002 : 163-164によると、舌面音については下記2種類が示されている。

- (11) 第一式 : g, k, h 在母音 | ㄨ 之前变读 |, k, ㄒ  
第二式 : j, ch, sh 在母音 | ㄨ 之前变读 |, k, ㄒ  
(第一式 : g, k, h を母音 | ㄨ の前で |, k, ㄒ と読み替える  
第二式 : j, ch, sh を母音 | ㄨ の前で |, k, ㄒ と読み替える)

第一式では1955年の草案初稿と同じように牙喉音と舌面音の字母が共通になっており、韻母で判別する方式である。第二式は國語ローマ字と同じである。第二式についてはそり舌音の表記も j, ch, sh であることから、國語ローマ字と同じようにそり舌音と舌面音の字母を分けず、韻母で判別する方式をとると考えられる。

また、第一式の g, k, h は團音の表記であると考えられるため、尖音の漢字まで表記できるのかについては明らかではない。しかし、ここでは第一式の g, k, h と第二式の j, ch, sh が同じように |, k, ㄒ を表すと考えられることと、國語ローマ字の j, ch, sh は尖音と團音を區別せず、舌面音全體を表記することから、第一式の g, k, h も舌面音全體を表記できるのではないかと考えられる。

#### 4.4 「漢語拼音方案」の舌面音表記

その後、1957年11月に國務院で承認された漢語拼音方案草案<sup>17)</sup>と1958年2月に全國人民代表大會で批准された「漢語拼音方案」の内容は同じで、これらが現行の「漢語拼音方案」となる。周有光 2002 : 172によると、舌面音は以下のように表記される。

j (ㄐ基) q (ㄑ欺) x (ㄒ希)

舌面音をj, q, xと表記するのは以前の草案や修正案では示されたことのない新しい表記法である。1956年草案のq, q, xという表記が基本になっていると考えられるが、キリル文字qがjに變更されている。q以外にも、1956年草案でラテン字母以外のものを借用したものは、最終的にほとんどラテン字母に改められた。<sup>18)</sup> 周有光 2002 : 178では、qについて「这个字母在书寫上容易跟别的字母相混，因此新草案改用j。（この字母は書いたときに他の字母と混亂しやすいため、新草案ではjに改めた。）」という説明がある。

Qという表記については、初めて舌面音の表記として用いられたのが1956年2月の漢語拼音方案草案である。その後、「漢語拼音方案」でもこの表記が正式に採用された。Qという表記が採用された理由について周有光は、(3)のように述べている。Qを[te']と讀むことができるということは、團音の表記を想定していると考えられる。[k]と讀むことができるqを[te']に當てるということは、團音の表記、もしくは團音の表記を舌面音全體に擴大して表記するという考え方であるということが分かる。

Xも1956年草案からそのまま採用されている。Xについては制定の過程であまり觸れられていないが、北方語ラテン化新文字では團音をxで表記していたことからの應用であると考えられる。また、「漢語拼音方案」では厂にhが採用されていることを考えると、xもqと同じように他に使われていない、餘った字母であったことも一つの理由であると考えられる。

また、j, q, xは舌面音のみを表す字母であり、他の聲母と兼用しない。この點は、周有光 2002 : 177の中で「漢語拼音方案」の特徴として擧げられている。

- (12) 國務院通过的这个汉语拼音方案草案的主要特點是：它只用26个國際通用的拉丁字母，不增加新字母；(中略) 聲母りく丁用三个专用字母，使整个方案基本上沒有变读

(國務院を通過したこの漢語拼音方案草案の主な特徴は、26文字の國際的に通用するラテン字母のみを使い、新しい字母を加えないこと、(中略) 聲母りく丁に三つの専用の字母を使い、方案全體を通してほぼ讀み替えないことである。)



舌面音の表記を獨立させるのに、餘った字母であったxやqは都合がよかったと考えられる。

また、周有光 2002：178-179によればこの草案の中の「关于汉语拼音方案草案的说明（漢語拼音方案草案に關する説明）」の中で「而现在北京语音里 l 不在 zh ch sh r 后面出现，也不在 z c s 后面出现，用 i 兼表这个韵母不會跟 l 相混。（現在の北京音の中で、l は zh ch sh r の後に現れず、z c s の後にも現れない。i でこの韻母を兼ねて表しても l と混亂することはないのである。）」<sup>19)</sup>と述べられている。1955年の漢語拼音文字方案（ラテン字母式）草案初稿の「zii, cii, sii 读ㄗㄛ、ㄘㄛ、ㄛㄛ」という記述と比べると、1957年の漢語拼音方案草案、並びに1958年の「漢語拼音方案」では尖音を表記しないということが明らかである。

「漢語拼音方案」の尖團について、周有光 2002：332は次のように述べている。

- (13) 尖团问题。有些人主张，汉语拼音应当区分尖团音。借此减少同音字。老國音是分尖团的。（中略）好些方言有尖团的區分。但是，北京话不分尖团，尖音一概并入团音。（中略）经过实地调查，知道北方话區虽然也有些地方區分尖团，可是多數地方不分尖团。最后决定，汉语拼音既然以北京语音为标准音，应当维持标准音的系统性，不宜加进尖团或其他的方言拼寫法。同音字多的很，不是區分尖团所能完全解决的。

（尖團の問題。ある人は、拼音は尖團を分けるべきだと主張する。これによって同音の字を減らすことができる。老國音は尖團を分ける。（中略）多くの方言は尖團の區別がある。しかし北京語は尖團を分けず、尖音は全て團音に合流した。（中略）實地調査を通して、北方語區域にも尖團を分ける地域があるが、多くの地域では尖團を分けないことが分かった。最終的に、漢語拼音は北京語を標準音としている以上、標準音の體系を維持すべきで、尖團や他の方言の綴り方を取り入れるべきでないと決定した。同音の字が非常に多いのは、尖團を分けることによって完全に解決できることではない。）

このように、尖團を分けず、舌面音に合流している北京語を基礎とし、その

體系を表記することを徹底したという姿勢が読み取れる。

以上、「漢語拼音方案」の制定過程における舌面音表記を検討した。尖團を分けて表記する案、他の聲母と兼用して韻母によって読み替える案、舌面音のみの独立した聲母を設けるという案があり、最終的に、読み替えが無く北京語に忠實な、舌面音を独立させる案が採用されたということができる。

## 5 「漢語拼音方案」の獨自性

以上、國語ローマ字、ラテン化新文字、注音字母、漢語拼音方案草案、「漢語拼音方案」の舌面音の表記をそれぞれ検討した。「漢語拼音方案」の舌面音表記j, q, xは國語ローマ字からj, 北方語ラテン化新文字からxを繼承したように見える。しかし、國語ローマ字jはそり舌音と舌面音を兼ねた表記であり、そのうち舌面音の部分のみを切り取ってピンインjとしている。また、北方語ラテン化新文字のxは、牙喉音と團音を兼ねた表記であり、そのうち團音の表記を切り取って舌面音全てに適用しピンインxとしている。このため、ピンインxは團音由來の表記であるということができる。ピンインqは、qを[k]と読むことから[te<sup>1</sup>]の表記として採用された。このことから、qも團音由來の表記であり、そこから表記の範圍を擴大して舌面音を表記するようになったと考えられる。以上のことから、舌面音を表すピンインj, q, xのうち、qとxは團音由來の表記であることがわかる。

國語ローマ字、ラテン化新文字どちらの表記も舌面音が獨立した字母を持たず、何らかの聲母と兼用して韻母で読み分ける方式を採用している。「漢語拼音方案」の舌面音表記がどちらのローマ字表記法とも異なるのは、「漢語拼音方案」の舌面音は他の聲母と兼用せず、獨立しているためである。この點で「漢語拼音方案」の舌面音表記は國語ローマ字とラテン化新文字のどちらかを繼承したということとはできない。舌面音が獨立した字母を持つのは、ローマ字表記法としては新しい體系である。

(4)でも指摘されているように、「漢語拼音方案」は舌面音が獨立した字母を持っているという點で注音字母と共通している。注音字母は、老國音では團音のみを表していたり、く、ㄒが新國音では尖音も含めて舌面音全體を表すようになった。舌面音の表記に團音由來の表記を採用していることになる。「漢

語拼音方案」の舌面音表記j, q, xのうち、qとxは團音由來の表記であり、このように團音由來の表記で舌面音を表す方法は注音字母と共通している。

以上のことから、「漢語拼音方案」の舌面音表記は舌面音が獨立している點、舌面音に團音由來の表記を用いる點で注音字母の體系に近く、國語ローマ字とラテン化新文字のどちらかを繼承したということではできない。「漢語拼音方案」の舌面音表記はローマ字表記法として新しい形である。

表1 表音文字聲母對應一覽

| 漢語拼音方案 | 國語ローマ字 <sup>20)</sup> | 北方語ラテン化新文字 <sup>21)</sup> |   | 注音字母<br>(老國音) <sup>22)</sup> | 注音字母<br>(新國音) |
|--------|-----------------------|---------------------------|---|------------------------------|---------------|
| b      | b                     | b                         |   | ㄅ                            | ㄅ             |
| p      | p                     | p                         |   | ㄆ                            | ㄆ             |
| m      | m                     | m                         |   | ㄇ                            | ㄇ             |
| f      | f                     | f                         |   | ㄈ                            | ㄈ             |
| d      | d                     | d                         |   | ㄉ                            | ㄉ             |
| t      | t                     | t                         |   | ㄊ                            | ㄊ             |
| n      | n                     | n                         |   | ㄋ                            | ㄋ             |
| l      | l                     | l                         |   | ㄌ                            | ㄌ             |
| g      | g                     | g                         |   | ㄍ                            | ㄍ             |
| k      | k                     | k                         |   | ㄎ                            | ㄎ             |
| h      | h                     | x                         |   | ㄏ                            | ㄏ             |
| j      | j                     | g                         | z | ㄐ                            | ㄐ             |
| q      | ch                    | k                         | c | ㄑ                            | ㄑ             |
| x      | sh                    | x                         | s | ㄒ                            | ㄒ             |
| zh     | j                     | zh                        |   | ㄓ                            | ㄓ             |
| ch     | ch                    | ch                        |   | ㄔ                            | ㄔ             |
| sh     | sh                    | sh                        |   | ㄕ                            | ㄕ             |
| r      | r                     | rh                        |   | ㄖ                            | ㄖ             |
| z      | tz                    | z                         |   | ㄗ                            | ㄗ             |
| c      | ts                    | c                         |   | ㄘ                            | ㄘ             |
| s      | s                     | s                         |   | ㄙ                            | ㄙ             |

注)

- 1) この論文では、「漢語拼音方案」による中國語ローマ字表記法を「ピンイン」と略稱することがある。
- 2) 漢字の表音化や簡化を行った政府機關。
- 3) ラテン化新文字は方言を重視していたため、北方語ラテン化新文字、江南語ラテン

化新文字、廣州語ラテン化新文字、廈門語ラテン化新文字など、いくつもの種類のラテン化新文字が考案された。この中で最も廣まったのが北方語ラテン化新文字であった。

- 4) 國語ローマ字については、趙元任 1929 : 40-54。
- 5) 國語ローマ字のiuはピンインüと同じである。また、國語ローマ字ではピンインzhi, chi, shi, zi, ci, siの韻母はyと表記される。
- 6) 注音字母ㄐㄑㄒはピンインj, q, x、注音字母ㄓㄔㄕはピンインzh, ch, shである。
- 7) 趙元任 1922に掲載されている國語ローマ字は草案であり、最終的に公布されたものとは内容が異なるが、同じようにそり舌音と舌面音に同じ字母を設け、韻母で読み分ける方式をとっているため、最終的に公布された國語ローマ字と同じ考え方であると考えられる。
- 8) この表記は草案の段階である。最終的に、j, tc, cはj, ch, shに、i, vはi, iuとなった。
- 9) 北方語ラテン化新文字については蕭三編 1978 : 141-203、吳玉章 1978 : 56-76。瞿秋白によるラテン化新文字については瞿秋白 1978 : 9-19, 39-89。
- 10) 北方語ラテン化新文字のyはピンインüと同じである。
- 11) 引用中の「ㄅ」は原文「ㄅ」であるが、前後を考慮して、「ㄅ」とした。「ㄆ」「ㄇ」は老國音を表記するのに使われていた注音字母で、「漢語拼音方案」には對應する聲母がない。
- 12) 周有光 2002 : 103-104では分かりやすさのために「漢語拼音方案」式に表記している。ピンインongは北方語ラテン化新文字ではungという表記である。
- 13) 老國音による注音字母については教育部讀音統一會 1919。新國音による注音字母については教育部國語統一籌備委員會編 1933。
- 14) これらの注音字母のピンインとIPAはそれぞれ、ㄍ [k]、ㄑ [k<sup>h</sup>]、ㄏ [x]、ㄐ [tɕ]、ㄑ [tɕ<sup>h</sup>]、ㄒ [ç]、ㄗ [ts]、ㄘ [ts<sup>h</sup>]、ㄙ [s]である。
- 15) 三十六字母は1つの注音字母に對し1つのみ付されているが、注音字母がここに示されている字母のみを示すのではない。例えば、期く | (群母)。
- 16) この1955年の草案初稿ではyは撮口呼であり、ピンインüと同じである。
- 17) 1956年2月のものとは別である。
- 18) 「漢語拼音方案」ではngの省略としてŋという表記を用いて良いことになっているが、実際に使用されることは少ない。ŋは「漢語拼音方案」の中で唯一用いられるラテン字母以外の字母である。
- 19) 注音字母 | は介音 [i] のみを表し、ピンインzh, ch, sh, r, z, c, sと綴り合わせることはない。
- 20) このほか、v, ng, gn, zがある。
- 21) このほか、w, r, ng, jがある。
- 22) このほか、兀とㄆと万がある。

<参考文献>

日本語文獻

- 大原信一 1994. 『近代中國のことばと文字』。東京：東方書店。  
倉石武四郎 1952. 『漢字の運命』。東京：岩波書店。  
中村雅之 2006. 「ラテン化新文字は山東方言か」『KOTONOHA』第48號：1-3頁。

中國語文獻

- 教育部國語統一籌備委員會編 1933. 《國音常用字彙》。上海：商務印書館。  
教育部讀音統一會 1919. 《國音字典》。上海：商務印書館。  
黎錦熙 1934. 《國語運動史綱》。上海：商務印書館。  
倪海曙 1987. 《拉丁化新文字运动的始末和编年纪事》。上海：知识出版社。  
瞿秋白 1989. 《瞿秋白文集·文學編》第3卷。北京：人民文學出版社。  
瞿秋白《中國拉丁化的字母》，橋本萬太郎編 1978. 『ラテン化新文字：資料集』（東京：特定研究「言語生活を充實發展させるための教育に關する基礎的研究」文字と言語班：9-89頁。  
王理嘉 2002. 《汉语拼音运动的回顾兼通用拼音问题》，《中國語文》第2期：165-173頁。  
吳玉章 1978. 《文字改革文集》。北京：中國人民大學出版社。  
蕭三編《拉丁化中國文字拼音和寫法的參考書》，橋本萬太郎編 1978. 『ラテン化新文字：資料集』特定研究「言語生活を充實發展させるための教育に關する基礎的研究」文字と言語班：141-203頁。  
一九三一年九月海參威第一次中國新文字代表大會決議「中國新文字十三原則」，倪海曙編 1949. 《中國語文的新生 拉丁化中國字運動二十年論文集》上海：時代出版社。  
趙元任 1922. 《國語羅馬字的研究》，《國語月刊》漢字改革號、第1卷，第7期，上海：中華民國國語研究會。  
趙元任 1929. 《國語羅馬字對話戲戲譜 最後五分鐘》。上海：中華書局。  
周有光 2002. 《周有光語文論集》第一卷。上海：上海文化出版社。

\* \*

作者：生塩 加詠

Author：USHIO Kae

標題：汉语拼音方案的舌面音字母

Title：On Palatal Romanization in “The Chinese Phonetic Alphabet Scheme” 漢語拼音方案

**摘要：**在制定汉语拼音方案时，国语罗马字和拉丁化新文字对它产生了显著影响。但国语罗马字和拉丁化新文字的舌面音字母跟汉语拼音方案的舌面音字母不同。国语罗马字中，舌面音与卷舌音共用一套字母体系；而拉丁化新文字有尖团之分，使得北京话的舌面音存在两种不同的书写方法。相比之下，汉语拼音方案在舌面音的表示上采取了更为独特的策略，不仅避免了与其他声母共用字母，而且也没有采用尖团的划分，这些特点与注音字母的做法相似。本文通过对比历史上的罗马字拼音方案，进一步指出，在汉语拼音方案中，q和x这两个字母原本用于表示团音，而团音的字母用于舌面音的方式也与注音字母相同。因此，汉语拼音方案中j、q、x这三个表示舌面音，可以说是一种与其他罗马字拼音方案不同的新方式。

**關鍵詞：**汉语拼音方案 国语罗马字 拉丁化新文字 注音字母 舌面音